

令和6年度第1回習志野市災害医療対策会議部会【確認・検討事項】に対する意見・結果

	事項		資料1 ページ	内容	部会内容	結果	備考
1	確認事項	各病院の災害モード基準	4	各病院はどのような状況下で災害モードとしているか。 また、各病院の災害モードと案の設置基準は合致しているか。	・谷津保健病院：震度5強で自動参集 ・済生会習志野病院：震度5弱で参集（エレベーター停止等で人員必要となるため） ・津田沼中央総合病院：震度5強以上で自動参集 ・習志野第一病院：震度5弱で参集	各病院共に震度6弱以下で参集のため、設置基準と合致。	震災は突如生じ連絡手段が得られないことが想定されるため、基準の震度で自動参集・設置する方法としたい。
2	検討事項	医薬品について	10	病院前救護所・病院にて医薬品の処方箋を発行した場合は、病院最寄りの薬局にて処方とし、各病院最寄りの数か所の薬局を開設することとしてはどうか。 その場合、薬剤師会員は開設する薬局と病院前救護所にそれぞれ参集とするか。	・発災直後は24時間開設となるため、各薬局にある程度の人員確保が必要。 ・被災し処方薬を失った人のためにインスリン等常備薬局の準備も必要。 【薬剤師会が行う確認事項】 ①開ける薬局と閉める薬局は薬剤師会で仕分ける ②薬の貸し借りは薬局間でできるのか 【市が行う確認事項】 ①応急救護所用の県・保健所備蓄衛生材料を有事の際開設する薬局へ回すことは可能か。（保健所へ確認）※	救護所での医薬品処方ではなく、病院最寄薬局での処方とする体制案について、反対意見はなし。	※R6.10月29日習志野保健所へ確認 回答：備蓄医薬品・衛生材料は県から市へ提供したもののため、市が責任を持ち管理する必要がある。そのため薬局へ、譲渡するはできない。

3	検討事項	運営協力	5	三師会・市職員の参集に時間が要する場合、または参集人数が少人数だった場合、病院職員の協力は可能か。	・谷津保健病院：30分以内に到着できる者が院内トリアージ担当者としており、外部メンバーが到着するまでの繋ぎは可能 ・済生会習志野病院：元よりトリアージ・緑担当者の役割は決まっている。 ・津田沼中央総合病院：トリアージ担当者は決まっているが、院内での周知は十分ではない。 ・習志野第一病院：トリアージ担当者決まっておらず。初期治療・軽症者治療は可能だが、黄赤の治療の方が難しい。	ケースバイケース。病院と病院前救護所メンバーと協力しあって行う。	発災の時間帯・被災状況に応じては、外部メンバーが参集するには時間を要す可能性がある。早期設置し早期にトリアージを開始することで、来院者を速やかに整理し病院の混乱を回避できるため案として提示したい。
4	検討事項	情報伝達共有方法	10	病院・病院前救護所の情報は病院へ情報集約し一本化とするでよいか。 また、病院と病院前救護所間のやりとりにも有効な手段はどのような方法か。（トランシーバー・PHS等）	【院内通信手段】 ・谷津保健病院：PHS（停電時も使用可）もしくはトランシーバー ・済生会習志野病院：トランシーバー ・津田沼中央総合病院：院内PHS ・習志野第一病院：iPhone ・病院と医療本部の情報共有・連絡手段として、EMIS項目事項はEMIで確認、それ以外の事項は無線を使用。 ・病院前救護所の、受診者数・トリアージ緑・軽症者数等は緊急事項ではないため、定時報告も可能か。それ以外の衛生材料や人員等急を要する事項は院内本部に情報伝達を行い、医療本部へ要請を行う。	情報集約の病院への一本化について、反対意見なし	

5	検討事項	病院前救護所 必要人員数	5	・各病院前救護所にどの程度の人員が必要か。 考えられるものとして ☒ トリアージ・ペア（医師と補助者）…何ペアか ☒ 治療ペア（医師と補助者）…何ペアか ☒ 受診者を誘導する者 ☒ 院内へのトリアージ黄・赤を搬送する者 ・参考として、現在の済生会習志野病院等の病院前救護所の人員配置を伺いたい。	・済生会習志野病院では、配置人員の人数は決めている。随時本部より指示を出す。 発災の時間帯等により人員も限られる。（日中であれば外来スタッフを投入できるが、それ以外の時間帯は院内人員も少なくなり人員が限られる）	人員の想定は難しい。 最低人員として、 ・トリアージ2ペア ・緑・軽症者治療2ペア（内科医1、外科医1） ・受付事務Ⅰ ・誘導事務Ⅰ	必要人員を打ち出し、それを踏まえ必要なテントの大きさ・設置に必要なスペース・必要物品数等を検討していきたい。 現段階で人員不足が明らかな場合、人員確保の調整も検討していく。
6	検討事項	傷病者の流れ・搬送	7	①原則、トリアージ黄・赤は全てトリアージ後ダイレクトに院内へ搬送でよい。 ②病院の稼働状況にかかわらず、トリアージ赤については、病状安定処置は可能か。（病院が傷病者受け入れが困難となった場合も病状安定処置は可能か） ③原則被災地内病院では大手術・大量輸血・透析等極力行わずのため、トリアージ赤は全て広域搬送依頼となるか。 ④災害拠点病院である済生会習志野病院もその他3病院と同様の体制でよい。 ⑤病院によって、受け入れ対象者を整理した方がよい。（○病院は、トリアージ赤は安定化処置後搬送、□病院は、トリアージ黄・赤共に受け入れする方向、△病院は透析患者受け入れOK 等）	①各病院はトリアージ後の黄赤傷病者の院内搬送可。その後の赤傷病者の処置については、済生会習志野病院へ搬送もしくはDMATを各病院へ派遣し対応することも検討。 ②以下については、病院の被災・ライフラインの状況によって、病院の診療体制は大きく影響を受け、各病院の治療可能範囲は左右される。震災後の計画停電中、津田沼中央総合病院は外来診療を閉鎖。谷津保健病院・習志野第一病院は停電等によりCT等機器類のが使用できず赤傷病者の治療等は難しい。 EMISや病院の被災状況を集約し、各病院の診療提供状況を踏まえ、医療本部で調整することが必要。	トリアージ後の黄赤傷病者の院内搬送は各病院可能。その後の赤の傷病者の処置については、3か所の病院は済生会習志野病院へ搬送若しくは、DMATを各病院へ派遣し対応。 その後の処置治療については、病院の被災状況により診療提供状況は異なってくるため、各病院の被災状況等を踏まえ医療本部が調整することが必要。	

7	確認事項	設置場所の条件	8	条件は妥当か、その他条件はないか。	【各病院の設置場所案】 ・ 済生会習志野病院：トリアージ・緑軽症者処置は正面玄関の軒下 ・ 津田沼中央総合病院：現在の院内計画では、トリアージは病院入口、緑軽症者は院内もしくはロータリー ・ 谷津保健病院：病院前駐車場スペース ・ 習志野第一病院：南館駐車場もしくは自転車置き場	各病院は病院前救護所の設置場所について具体的に検討されているため、今年度実施予定の現地調査で整理する。	
8	確認事項	必要物品と保管場所	8	その他に想定される必要物品はないか。	・ 保管場所の想定されるスペースは、今後購入を検討しているテント等資器材を含め、現在使用中の習志野第一中学校災害医療倉庫（幅179×奥行137×高さ207.5cm）2台程度か。 ・ 済生会習志野病院は、現在の習志野第二中学校の災害医療倉庫内容であれば、院内地下に保管できる。 ・ 津田沼中央総合病院は、B館休憩スペースに保管できるか ・ 習志野第一病院は駐車場ガレージに入るか。 ・ 谷津保健病院は院内に保管は難しい。	今年度実施予定の現地調査で検討する。	